

平成27年4月24日

「日本遺産(Japan Heritage)」の認定結果及びロゴマークの発表について

平成27年4月21日（火）に開催された「日本遺産審査委員会」の審議を経て別紙1の18件を平成27年度の「日本遺産（Japan Heritage）」に認定しました。また、「日本遺産（Japan Heritage）」のロゴマークについて決定しましたのでお知らせします。

詳しくは以下の資料を参照願います。

別紙1 平成27年度「日本遺産（Japan Heritage）」認定一覧

別紙2 平成27年度「日本遺産（Japan Heritage）」認定概要

別紙3 平成27年度「日本遺産（Japan Heritage）」申請一覧

別紙4 日本遺産（Japan Heritage）」について

別紙5 日本遺産審査委員会委員名簿

「日本遺産」のロゴマークについて

<担当> 文化庁文化財部記念物課
課長 高橋 宏治（内線 2873）
課長補佐 鈴木 修二（内線 3101）
専門官 小畑 康生（内線 2874）
企画調整係 吉田 尊徳（内線 4768）
楠 明香里（内線 4768）
川口 武彦（内線 4768）
世界遺産企画係 齋藤 彩（内線 4762）
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-4760（直通）

平成27年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定一覧

No	都道府県	申請者 (◎は代表自治体)	ストーリーのタイトル
1	茨城県・栃木県・ 岡山県・大分県	◎水戸市(茨城県)・足利市(栃木 県)・備前市(岡山県)・日田市(大分 県)	近世日本の教育遺産群 一学ぶ心・礼節の本源一
2	群馬県	◎群馬県 (桐生市, 甘楽町, 中之条町, 片品 村)	かかあ天下ーぐんまの絹物語ー
3	富山県	高岡市	加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 一人、技、心ー
4	石川県	◎石川県 (七尾市, 輪島市, 珠洲市, 志賀町, 穴水町, 能登町)	灯(あか)り舞う半島 能登 ～熱狂のキリコ祭り～
5	福井県	◎福井県 (小浜市, 若狭町)	海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 ～御食国(みけつくに)若狭と鯖街道～
6	岐阜県	岐阜市	「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜
7	三重県	明和町	祈る皇女斎王のみやこ 斎宮
8	滋賀県	◎滋賀県 (大津市, 彦根市, 近江八幡市, 高島 市, 東近江市, 米原市)	琵琶湖とその水辺景観ー祈りと暮らしの水遺産
9	京都府	◎京都府 (宇治市, 城陽市, 八幡市, 京田辺 市, 木津川市, 宇治田原町, 和束町, 南山城村)	日本茶800年の歴史散歩
10	兵庫県	篠山市	丹波篠山 デカンショ節 ー民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶
11	奈良県	◎明日香村・橿原市・高取町	「日本国創成のときー飛鳥を翔(かけ)た女性たちー」
12	鳥取県	三朝町	六根清浄と六感治癒の地 ～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン 泉～
13	島根県	津和野町	津和野今昔～百景図を歩く～
14	広島県	尾道市	尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市
15	愛媛県・高知県・ 徳島県・香川県	◎愛媛県・高知県・徳島県・香川県 (各県内57市町村)	「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～
16	福岡県	太宰府市	古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～
17	長崎県	◎長崎県 (対馬市, 壱岐市, 五島市, 新上五島 町)	国境の島 壱岐・対馬 ～古代からの架け橋～
18	熊本県	◎人吉市・錦町・あさぎり町・多良木 町・湯前町・水上村・相良村・五木村・ 山江村・球磨村	相良700年が生んだ保守と進取の文化 ～日本でもっとも豊かな隠れ里 ー 人吉球磨 ～

平成27年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定概要

① ◎水戸市（茨城県）・足利市（栃木県）・備前市（岡山県）・日田市（大分県）

※ ◎印は代表自治体（以下同）

《近世日本の教育遺産群 ―学ぶ心・礼節の本源―》

〈ストーリーの概要〉

我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示した。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれている。



【旧弘道館・足利学校跡・旧閑谷学校・咸宜園跡】

② ◎群馬県（桐生市，甘楽町，中之条町，片品村）

《かかあ天下―ぐんまの絹物語―》

〈ストーリーの概要〉

古くから絹産業の盛んな上州では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます女性が活躍した。夫(男)たちは、おれの「かかあは天下」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になるとともに、現代では内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっている。

「かかあ」たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や織物の工場(こうば)を訪ねることで、日本経済を、まさに天下を支えた日本の女性たちの姿が見えてくる。



【永井いと肖像画】

③ 高岡市（富山県）

《加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 一人、技、心》

〈ストーリーの概要〉

高岡は商工業で発展し、町民によって文化が興り受け継がれてきた都市である。高岡城が廃城となり、繁栄が危ぶまれたところで加賀藩は商工本位の町への転換政策を実施し、浮足立つ町民に活を入れた。鋳物や漆工などの独自生産力を高める一方、穀倉地帯を控え、米などの物資を運ぶ良港を持ち、米や綿、肥料などの取引拠点として高岡は「加賀藩の台所」と呼ばれる程の隆盛を極める。町民は、固有の祭礼など、地域にその富を還元し、町民自身が担う文化を形成した。純然たる町民の町として発展し続け、現在でも町割り、街道筋、町並み、生業や伝統行事などに、高岡町民の歩みが色濃く残されている。



【重伝建地区山町筋を巡行する高岡御車山】

④ ◎石川県（七尾市，輪島市，珠洲市，志賀町，穴水町，能登町）

《^{あか}灯り舞う半島 能登 ～熱狂のキリコ祭り～》

〈ストーリーの概要〉

日本海文化の交流拠点である能登半島は独自の文化を育み、数多くの祭礼が行われてきた。その白眉はキリコ祭り^{あか}と総称される灯籠神事。夏、約200地区で行われ、能登を照らし出す。日本の原風景である素朴な農漁村で神輿とともに、最大で2トン、高さ15mのキリコを担ぎ上げ、激しく練り回る。祇園信仰や夏越しの神事から発生した祭礼が、地区同士でその威勢を競い合う中で独特な発展をし、そしてこれほどまでに灯籠神事が集積をした地域は唯一無二。夏、能登を旅すればキリコ祭りに必ず巡り会えると言っても過言ではなく、それは神々に巡り会う旅ともなる。



【能登のキリコ祭り】

⑤ ◎福井県（小浜市，若狭町）

《海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～^{みけつくに}御食国若狭と鯖街道～》

〈ストーリーの概要〉

若狭は、古代から「^{みけつくに}御食国」として塩や海産物など豊富な食材を都に運び、都の食文化を支えてきた地である。

また、大陸からつながる海の道と都へとつながる陸の道が結節する最大の拠点となった地であり、古代から続く往来の歴史の中で、街道沿いには港，城下町，宿場町が栄え、また往来によりもたらされた祭礼，芸能，仏教文化が街道沿いから農漁村にまで広く伝播し，独自の発展を遂げた。

近年「鯖街道」と呼ばれるこの街道群沿いには，往時の賑わいを伝える町並みとともに，豊かな自然や，受け継がれてきた食や祭礼など様々な文化が今も息づいている。



【重伝建地区熊川宿】

⑥ 岐阜市（岐阜県）

《「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜》

〈ストーリーの概要〉

戦国時代，岐阜城を拠点に天下統一を目指した織田信長。彼は戦いを進める一方，城内に「地上の楽園」と称される宮殿を建設，軍事施設である城に「魅せる」という独創性を加え，城下一帯を最高のおもてなし空間としてまとめあげる。

自然景観を活かした城内外の眺望や長良川での鵜飼観覧による接待。冷徹なイメージを覆すような信長のおもてなしは，宣教師

ルイス・フロイスら世界の賓客をも魅了した。信長が形作った城・町・川文化は城としての役割を終えた後も受け継がれ，現在の岐阜の町に息づいている。



【岐阜城と鵜飼い観覧】

⑦ 明和町（三重県）

《祈る皇女齋王のみやこ 齋宮》

〈ストーリーの概要〉

古代から中世にわたり，天皇に代わって伊勢神宮の天照大神に仕えた「齋王」は，皇女として生まれながら，都から離れた伊勢の地で，人と神との架け橋として，国の平安と繁栄を願い，神への祈りを捧げる日々を送った。

齋王の宮殿である齋宮は，伊勢神宮領の入口に位置し，都さながらの雅な暮らしが営まれていたと言われている。

地元の人々によって神聖な土地として守り続けられてきた齋宮跡一帯は，日本で齋宮が存在した唯一の場所として，皇女の祈りの精神を今日に伝えている。



【齋宮跡】

⑧ ◎滋賀県（大津市，彦根市，近江八幡市，高島市，東近江市，米原市）

《琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産》

〈ストーリーの概要〉

穢れを除き，病を癒すものとして祀られてきた水。仏教の普及とともに東方にあっては，瑠璃色に輝く「水の浄土」の教主・薬師如来が広く信仰されてきた。琵琶湖では，「水の浄土」を臨んで多くの寺社が建立され，今日も多くの人々を惹きつけている。また，暮らしには，山から水を引いた古式水道や湧き水を使いながら汚さないルールが伝わっている。湖辺の集落や湖中の島では，米と魚を活用した鮒ずしなどの独自の食文化やエリなどの漁法が育まれた。多くの生き物を育む水郷



【八幡堀（近江八幡の水郷）】

や水辺の景観は，芸術や庭園に取り上げられてきたが，近年では，水と人の営みが調和した文化的景観として，多くの現代人をひきつけている。ここには，日本人の高度な「水の文化」の歴史が集積されている。

⑨ ◎京都府（宇治市，城陽市，八幡市，京田辺市，木津川市，宇治田原町，和束町，南山城村）

《日本茶 800 年の歴史散歩》

〈ストーリーの概要〉

お茶が中国から日本に伝えられて以降，京都・南山城は，お茶の生産技術を向上させ，茶の湯に使用される「抹茶」，今日広く飲まれている「煎茶」，高級茶として世界的に広く知られる「玉露」を生み出した。

この地域は，約800年間にわたり最高級の多種多様なお茶を作り続け，日本の特徴的文化である茶道など，我が国の喫茶文化の展開を生産，製茶面からリードし，発展をとげてきた歴史と，その発展段階毎の景観を残しつつ今に伝える独特で美しい茶畑，茶問屋，茶まつりなどの代表例が優良な状態で揃って残っている唯一の場所である。



【宇治茶の郷 和束の茶畑】

⑩ 篠山市（兵庫県）

《丹波篠山 デカンショ節 -民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶》

〈ストーリーの概要〉

かつて城下町として栄えた丹波篠山の地は，江戸時代の民謡を起源とするデカンショ節によって，地域のその時代ごとの風土や人情，名所，名産品が歌い継がれている。

地元の人々はこぞってこれを愛唱し，民謡の世界そのままにふるさとの景色を守り伝え，地域への愛着を育んできた。

その流れは，今日においても，新たな歌詞を生み出し新たな丹波篠山を更に後世に歌い継ぐ取組として脈々と生き続けており，今や300番にも上る「デカンショ節」を通じ，丹波篠山の街並みや伝統をそこかしこで体験できる世界が展開している。



【デカンショ祭】

⑪ ◎明日香村・橿原市・高取町（奈良県）

《日本国創成のとき—飛鳥を翔（かけ）た女性たち—》

〈ストーリーの概要〉

日本が「国家」として歩み始めた飛鳥時代。この日本の黎明期を牽引したのは女性であった。

この時代の天皇の半数は女帝であり、彼女たちの手によって、新たな都の造営，外交，大宝律令を始めとする法制度の整備が実現された。また，文化面では，女流歌人が感性豊かな和歌を高らかに詠い上げ，宗教面では，尼僧が仏教の教えを広め，発展させるなど，

政治・文化・宗教の各方面で女性が我が国の新しい“かたち”を産み出し，成熟させていった。日本国創成の地である飛鳥は，日本史上，女性が最も力強く活躍した場所であり，その痕跡が色濃く残る地である。



【伝飛鳥板蓋宮跡】

⑫ 三朝町（鳥取県）

《六根清浄と六感治癒の地 ～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～》

〈ストーリーの概要〉

三徳山は，山岳修験の場としての急峻な地形と神仏習合の特異の意匠・構造を持つ建築とが織りなす独特の景観を有しており，その人を寄せ付けない厳かさは1000年にわたって畏怖の念を持って守られ続けている。



参拝の前に心身を清める場所として三徳山参詣の『拠点を担った三朝(みささ)温泉』

【開山1300年の投入堂特別参拝】

は，三徳山参詣の折に白狼により示されたとの伝説が残り，温泉発見から900年を経て，なお，三徳山信仰と深くつながっている。今日，三徳山参詣は，断崖絶壁での参拝により「六根（目，耳，鼻，舌，身，意）」を清め，湯治により「六感（観，聴，香，味，触，心）」を癒すという，ユニークな世界を具現化している。

⑬ 津和野町（島根県）

《津和野今昔～百景図を歩く～》

〈ストーリーの概要〉

幕末の津和野藩の風景等を記録した「津和野百景図」には、藩内の名所、自然、伝統芸能、風俗、人情などの絵画と解説が 100 枚描かれている。明治以降、不断の努力によって町民は多くの開発から街を守るとともに、新しい時代の風潮に流されることなく古き良き伝統を継承してきた。百景図に描かれた当時の様子と現在の様子を対比させつつ往時の息吹が体験できる稀有な城下町である。



【津和野城現況＋百景図】

⑭ 尾道市（広島県）

《尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市》

〈ストーリーの概要〉

尾道三山と対岸の島に囲まれた尾道は、町の中心を通る「海の川」とも言うべき尾道水道の恵みによって、中世の開港以来、瀬戸内随一の良港として繁栄し、人・もの・財が集積した。

その結果、尾道三山と尾道水道の間の限られた生活空間に多くの寺社や庭園、住宅が造られ、それらを結ぶ入り組んだ路地・坂道とともに中世から近代の趣を今に残す箱庭的都市が生み出された。

迷路に迷い込んだかのような路地や、坂道を抜けた先に突如として広がる風景は、限られた空間ながら実に様々な顔を見せ、今も昔も多くの人を惹きつけてやまない。



【春の天寧寺三重塔】

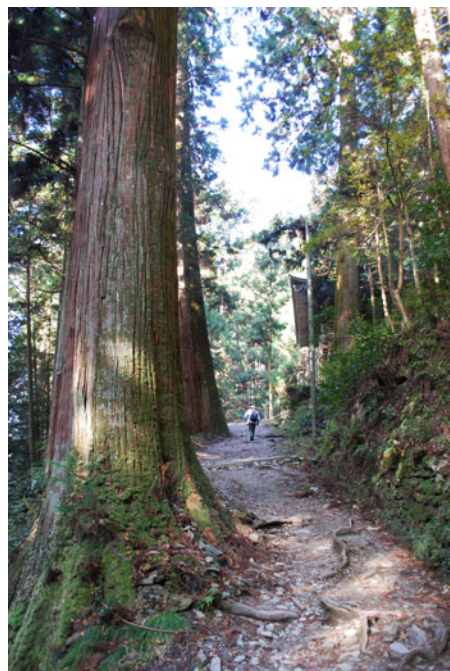
⑮ ◎愛媛県・高知県・徳島県・香川県（各県内 57 市町村）

≪「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～≫

〈ストーリーの概要〉

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長 1400 キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が 1200 年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。

キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。



【44 番大宝寺参道】

⑯ 太宰府市（福岡県）

≪古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～≫

〈ストーリーの概要〉

大宰府政庁を中心としたこの地域は、東アジアからの文化、宗教、政治、人などが流入・集積するのみならず、古代日本にとって東アジアとの外交、軍事の拠点でもあり、軍事施設や都市機能を建設するのに地の利を活かした理想の場所であった。現在においても大宰府跡とその周辺景観は当時の面影を残し、宗教施設、迎賓施設、直線的な道や碁盤目の地割跡は、1300 年前の古代国際都市を現代において体感できる場所である。



【大宰府政庁跡】

⑰ ◎長崎県（対馬市，壱岐市，五島市，新上五島町）

《国境の島 壱岐・対馬 ～古代からの架け橋～》

〈ストーリーの概要〉

日本本土と大陸の中間に位置することから、長崎県の島は、古代よりこれらを結ぶ海上交通の要衝であり、交易・交流の拠点であった。

特に朝鮮との関わりは深く、壱岐は弥生時代、海上交易で王都を築き、対馬は中世以降、朝鮮との貿易と外交実務を独占し、中継貿易の拠点や迎賓地として栄えた。

その後、中継地の役割は希薄になったが、古代住居跡や城跡、庭園等は当時の興隆を物語り、焼酎や麺類等の特産品、民俗行事等にも交流の痕跡が窺える。

国境の島ならではの融和と衝突を繰り返しながらも、連綿と交流が続くこれらの島は、国と国民と民の深い絆が感じられる稀有な地域である。



【金石城跡（対馬アリラン祭）】

⑱ ◎人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村（熊本県）

《相良700年が生んだ保守と進取の文化 ～日本でもっとも豊かな隠れ里 一人吉球磨～》

〈ストーリーの概要〉

人吉球磨の領主相良氏は、急峻な九州山地に囲まれた地の利を生かして外敵の侵入を拒み、日本史上稀な「相良700年」と称される長きにわたる統治を行った。その中で領主から民衆までが一体となったまちづくりの精神が形成され、社寺や仏像群、神楽等とともに信仰し、楽しみ、守る文化が育まれた。同時に進取の精神をもってしたたかに外来の文化を吸収し、独自の食文化や遊戯、交通網が整えられた。保守と進取、双方の精神から昇華された文化の証が集中して現存している地域は他になく、日本文化の縮図を今に見ることが出来る地域であり、司馬遼太郎はこの地を「日本でもっとも豊かな隠れ里」と記している。



【臼太鼓踊り】

平成27年度「日本遺産(Japan Heritage)」申請一覧

83件(40都府県, 238市町村)の提案

No	都道府県	申請者 (◎は代表自治体)	ストーリーのタイトル
1	岩手県	平泉町	平泉と義経
2	宮城県	多賀城市	みちのくの都・多賀城と歌枕ー都人があこがれ、芭蕉が泪したみちのくの風雅ー
3	山形県	◎山形県 (山形市, 寒河江市, 東根市, 村山市, 尾花沢市, 中山町, 河北町, 朝日町, 大江町, 大石田町, 新庄市, 舟形町, 大蔵村, 戸沢村, 米沢市, 長井市, 高畠町, 川西町, 白鷹町, 鶴岡市, 酒田市, 庄内町)	最上川舟運が育んだ文化と景観 ～人々が川とともに創り上げた歴史・文化・景観を今に伝える唯一の川・最上川～
4	山形県	鶴岡市	日本最大の蚕室群 松ヶ岡開墾場 ～庄内藩士の開拓精神とジャパン侍シルクの源流
5	福島県	◎会津若松市・喜多方市・南会津町・下郷町・檜枝岐村・只見町・北塩原村・西会津町・磐梯町・猪苗代町・会津坂下町・湯川村・柳津町・会津美里町・三島町・金山町・昭和村	仏都会津 ～徳一と会津の仏教遺産群～
6	茨城県・栃木県・岡山県・大分県	◎水戸市(茨城県)・足利市(栃木県)・備前市(岡山県)・日田市(大分県)	近世日本の教育遺産群 ー学ぶ心・礼節の本源ー
7	栃木県	日光市	日本近代化の縮図 足尾銅山
8	群馬県	◎群馬県 (桐生市, 甘楽町, 中之条町, 片品村)	かかあ天下ーぐんまの絹物語ー
9	群馬県	甘楽町	水の流れる城下町 ー街をつくった泉水路「雄川堰(おがわぜき)」物語ー
10	群馬県	下仁田町	世界遺産の養蚕地域を支えた信仰～日常生活に宿る養蚕豊作への願い～
11	埼玉県	行田市	東国歴史フィールドミュージアム
12	東京都	◎国分寺市・府中市	古代武蔵国の国府と国分寺ー古代律令都市1,300年の歴史が紡ぐまちー
13	神奈川県	小田原市	今に息づく報徳仕法の源流を訪ねて
14	富山県	高岡市	加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 ー人、技、心ー
15	石川県	◎石川県 (七尾市, 輪島市, 珠洲市, 志賀町, 穴水町, 能登町)	灯(あか)り舞う半島 能登 ～熱狂のキリコ祭り～
16	石川県	金沢市	元祖文化創造都市 ～加賀百万石文化～
17	石川県	◎羽咋市・宝達志水町	「漂着神」たちの聖地 ～口能登地域の祈りと祭りの文化財めぐり～
18	石川県	金沢市	黄金の国ジバング・きらめく金沢の金箔
19	石川県	金沢市	三つの寺院群と茶屋街 ～歩く・観る・祈る～
20	石川県	金沢市	城下町金沢 ～水と雪の文化が織りなす庭園美～
21	石川県	白山市	「白山」雪の女神が生み出した宝物
22	石川県	白山市	加賀一向一揆の城と寺院 ～「百姓の持ちたる国」を往く～
23	石川県	小松市	源平ロマンの足跡と歌舞伎の華「勸進帳」のふるさと
24	石川県	小松市	大地が育んだ石と人とのづくりの産業遺産群
25	石川県	◎輪島市・金沢市・羽咋市	禅の聖地 北陸 ～瑩山(けいざん)禪師(ぜんじ)の足跡を辿る～
26	石川県	加賀市	北前船船主集落 ～近代グローバル社会へ挑んだ日本海海村の知恵と魂(こころ)～
27	福井県	◎福井県 (小浜市, 若狭町)	海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 ～御食国(みけつくに)若狭と鯖街道～

No	都道府県	申請者 (◎は代表自治体)	ストーリーのタイトル
28	福井県	◎福井県 (福井市, 大野市, 勝山市, 永平寺町)	今にのこる中世の巨大政治都市・宗教都市、日本最大の修行道場
29	長野県	南木曾町	「妻籠宿と中山道」-いつまでも変わらない歴史の古道(こどう)へ-
30	長野県	松本市	四神相応の城下町に伝わる商人文化～あめ市・ぼんぼん・七夕人形～
31	岐阜県	岐阜市	「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜
32	岐阜県	高山市	伝統的な町並みの中に町人文化が息づくまち 高山
33	岐阜県	中津川市	馬籠宿・落合宿と中山道—「夜明け前の世界」
34	岐阜県	高山市	時代の変遷とともに歴史を重ねる五街道
35	岐阜県	高山市	飛騨山脈に抱かれた人々の信仰と暮らし
36	岐阜県	郡上市	日本一のおどりまち郡上(郡上の盆踊り文化)
37	静岡県	静岡市	駿府は家康公の理想郷
38	愛知県	名古屋市長	豪華絢爛好きの大名・徳川宗春の祭礼・芸能振興による都市の活性化
39	三重県	明和町	祈る皇女斎王のみやこ 斎宮
40	三重県	亀山市	日本の東西を結ぶまち 東海道 鈴鹿越え
41	滋賀県	◎滋賀県 (大津市, 彦根市, 近江八幡市, 高島市, 東近江市, 米原市)	琵琶湖とその水辺景観—祈りと暮らしの水遺産
42	滋賀県・三重県	◎甲賀市(滋賀県)・伊賀市(三重県)	忍者の聖地、甲賀・伊賀 ～「正心」(せいしん)を呼び覚ませ
43	滋賀県	長浜市	「まんまんちゃんあん！」が息づく里・長浜 一朝な夕なに仏とくらす戦国戦地の物語—
44	滋賀県	大津市	日本人の心のよりどころ一世の中に山てふ山は多かれど 山とは比叡の御山をぞいふ—
45	滋賀県	彦根市	赤備えの町・彦根—Home (Town) of the Red Warriors
46	滋賀県	◎甲賀市・湖南市・草津市・大津市	広重の愛した女(ひと)～歴史の道 東海道編～
47	京都府	◎京都府 (宇治市, 城陽市, 八幡市, 京田辺市, 木津川市, 宇治田原町, 和東町, 南山城村)	日本茶800年の歴史散歩
48	京都府	京都市	京・花街の文化
49	京都府	◎京都府 (宮津市, 与謝野町, 舞鶴市)	天地山海・和の源流
50	京都府・滋賀県	◎京都市(京都府)・大津市(滋賀県)	琵琶湖疏水と庭園群
51	兵庫県	篠山市	丹波篠山 デカンショ節 -民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶
52	兵庫県	◎淡路市・洲本市・南あわじ市	日本のはじまりの地 淡路島
53	兵庫県	高砂市	やま・うみ・かわの交流を活かすまち～竜山石の文化・みなとのまち・塩づくり・白砂青松～
54	兵庫県	姫路市	HIMEJI—平和と安寧を祈るまち—
55	奈良県	◎明日香村・橿原市・高取町	「日本国創成のとき—飛鳥を翔(かけ)た女性たち—」
56	奈良県	吉野町	水の聖地～吉野の文化遺産群
57	和歌山県	◎和歌山県 (橋本市, かつらぎ町, 九度山町, 高野町, 岩出市, 海南市, 田辺市, 串本町, 紀の川市)	超人 空海が遺した伝説と文化
58	和歌山県	◎御坊市・日高川町	日本最古のシンデレラストーリー
59	鳥取県	三朝町	六根清浄と六感治癒の地 ～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～
60	鳥取県	津和野町	津和野今昔～百景図を歩く～

No	都道府県	申請者 (◎は代表自治体)	ストーリーのタイトル
61	島根県	◎雲南市・安来市・奥出雲町	たたら製鉄と神話が息づく鉄の道
62	岡山県	高梁市	天空の城と赤褐色の町並みー備中高梁の歴史遺産群ー
63	岡山県	津山市	津山城と城下町の祭礼 ～藩主と町方が共に楽しんだ祭礼～
64	岡山県	備前市	天下人が愛したうつわ
65	広島県	尾道市	尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市
66	山口県	岩国市	夢と時代の架け橋「錦帯橋」
67	香川県	◎小豆島町・土庄町	今もなお現役の文化財 ～木桶が醸す小豆島の醤油～
68	愛媛県・高知県・徳島県・香川県	◎愛媛県・高知県・徳島県・香川県 (各県内57市町村)	「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～
69	愛媛県	◎愛媛県 (今治市、松山市)	再発見「瀬戸内水軍」ロマン遺産
70	愛媛県	大洲市	大洲の和のおもてなし
71	愛媛県	西予市	ふおんしいほととの娘が学んだ町と近代へのあゆみ
72	愛媛県	松山市	ことばのまち松山の詩歌文学遺産群
73	愛媛県	新居浜市	別子銅山近代化産業遺産群
74	高知県	佐川町	文教のまち佐川～酒と桜の香に酔いしれ偉人達の夢に想いをはせる～
75	福岡県	太宰府市	古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～
76	福岡県・佐賀県	◎大野城市・宇美町(福岡県)・基山町(佐賀県)	古代山城歴史回廊～倭国から日本国へ～
77	長崎県	◎長崎県 (対馬市、壱岐市、五島市、新上五島町)	国境の島 壱岐・対馬 ～古代からの架け橋～
78	長崎県	長崎市	石炭産業盛衰の経験を活かし、地域・観光振興に挑む四つの島の物語～石炭の島から体験・エコの島へ～
79	熊本県	◎人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村	相良700年が生んだ保守と進取の文化 ～日本でもっとも豊かな隠れ里ー 人吉球磨ー
80	宮崎県	◎宮崎県 (宮崎市、日南市、高原町、西都市、日向市、高千穂町)	日本の始まりの物語 ～神話の源流～
82	宮崎県	日南市	緑に囲まれた石垣の城下町鉄肥—400年間維持してきた自然との共生—
82	鹿児島県	◎東串良町・鹿屋市・志布志市・大崎町・肝付町	日本最南端の古墳群と神話の物語
83	沖縄県	◎名護市・国頭村・今帰仁村・宜野座村・金武町・恩納村・伊江村	民話と神話の里やんばる

※ 網掛けは平成27年度の「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定されたもの

「日本遺産 (Japan Heritage)」について

地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定するとともに、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図る。

1. 認定対象

- 日本遺産は、以下の点を踏まえたストーリーを認定する（文化財そのものが認定の対象となるわけではない）。
 - ・ 歴史的経緯や、地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承、風習等を踏まえたストーリーであること。
 - ・ ストーリーの中核には、地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものが据えられていること。
 - ・ 単に地域の歴史や文化財の価値を解説するだけのものになっていないこと。

- ストーリーのタイプとしては2種類
 - ・ 「地域型」…単一の市町村内でストーリーが完結。
 - ・ 「シリアル型（ネットワーク型）」…複数の市町村にまたがってストーリーが展開（複数の市町村に下記「ストーリーの構成文化財」が所在）。

2. ストーリーを語る上で不可欠な文化財群（ストーリーの構成文化財）

- 地域の魅力ある有形・無形の文化財群の一覧を作成するものとする。
- 構成文化財は、地域に受け継がれている有形・無形のあらゆる文化財を対象とし、地方指定や未指定の文化財も可能とする。
- 日本遺産のストーリーが我が国の文化・伝統を語るものであることから、文化財群の中に国指定・選定のものを必ず一つは含めることとする。

3. 認定申請の手続き

(1) 申請者

- 日本遺産の申請者は市町村とし、文化庁への申請は都道府県教育委員会を經由して行う。
- シリアル型の場合、原則として市町村の連盟とするが、当該市町村が同一都道府県内に所在する場合は当該都道府県が申請者となることも可能。

(2) 認定申請を行うに当たっての条件

- 認定申請を行うことができるのは、歴史文化基本構想又は歴史的風致維持向上計画を策定済みの市町村、若しくは世界文化遺産一覧表記載案件又は世界文化遺産暫定一覧表記載・候補案件を有する市町村とする。
- 地域型の申請の場合は上記の条件が必須であるが、シリアル型の申請の場合は満たすことが望ましい。

(3) 認定の可否

- 認定可否は、文化庁に設置する外部有識者で構成される「日本遺産審査委員会」の審査結果を踏まえて、文化庁が決定する。

(4) 認定基準

- ストーリーの内容が、当該地域の際立った歴史的特徴・特色を示すものであるとともに我が国の魅力を十分に伝えるものとなっていること。
※ストーリーについては、以下の観点から総合的に判断する。
 - ・興味深さ（人々が関心を持ったり惹きつけられたりする内容となっているか。）
 - ・斬新さ（あまり知られていなかった点や隠れた魅力を打ち出しているか。）
 - ・訴求力（専門的な知識がなくても理解しやすい内容となっているか。）
 - ・希少性（他の地域ではあまり見られない稀有な点があるか。）
 - ・地域性（地域特有の文化が現れているか。）
- 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、実現に向けた具体的な方策が適切に示されていること。
- ストーリーの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること。

日本遺産審査委員会委員一覧

◎稲葉 信子 筑波大学大学院教授

小山 薫堂 放送作家・映画脚本家

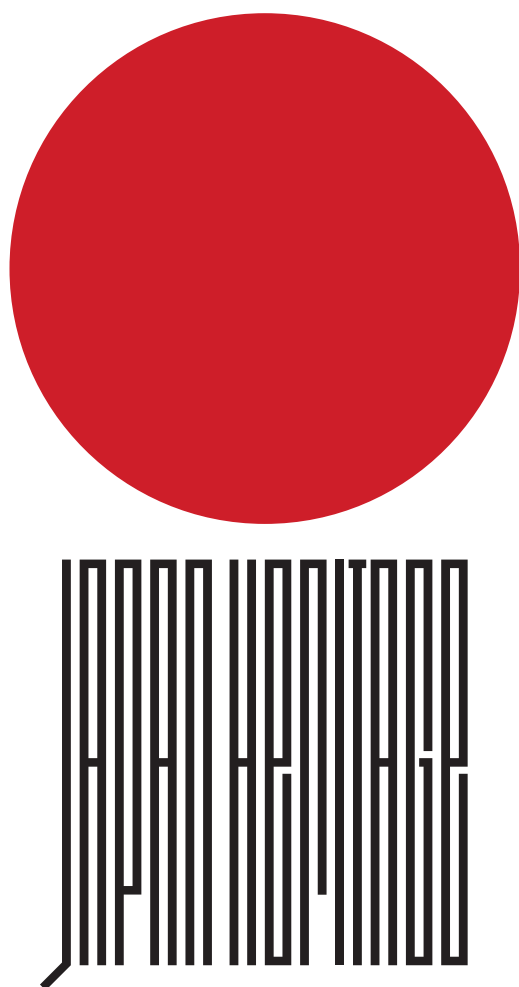
里中 満智子 漫画家

下村 彰男 東京大学大学院教授

丁野 朗 公益社団法人日本観光振興協会常務理事・総合調査研究所長

デービッド・アトキンソン 小西美術工藝社代表取締役社長

※ ◎印は委員長



「日本遺産」ロゴマークについて

日の丸は日本を表し、その下の縦格子のように見える繊細な線の集合は、よく見ると JAPAN HERITAGE の文字です。この線の集合は、ひとつの「面」を形づくっています。つまり、日本の遺産を点から線へ、そして面で捉える「日本遺産」を表現しています。

制作者：佐藤 卓（グラフィックデザイナー）

1984年佐藤卓デザイン事務所設立。商品デザイン、美術館、博物館のシンボルマークを手掛けるほか、NHK Eテレ「デザインあ」の総合指導、21_21 DESIGN SIGHT ディレクターを務めるなど多岐にわたって活動。

文化庁が認定する「日本遺産（JAPAN HERITAGE）」にて表示いただくとともに、各種パンフレットなどにおいて表示することにより、日本の魅力溢れる文化・伝統が世界に発信されるべく、活用してまいります。本ロゴマークを末永くご愛用いただけますよう、よろしく願いいたします。